

令和4年度 美作市立美作第一小学校 学校評価書

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準 数値目標は4段階・上位評価(●のみ最上位評価)	自己評価(最終)		分析・改善方針	学校関係者 評価
			達成状況【昨年】	評価		
1 学び合う 児童の育 成	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学びに重点を置いた授業改善 ・学習規律「ハズスタンダード」の徹底 ・岡山型学習指導のスタンダードの徹底 ・あてて対応させ話し合いを基にまとめ、振り返りを書く/ノート指導の徹底 ・全国学力テスト問題やそれらの分析結果を生かした補充学習、到達度確認テストの活用への取り組み ・自学ノート校内掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ●対話を通じて、協働的に課題解決しようとする児童が50%以上。(児童、職員アンケート。保護者30%) ●めあてに対応させ話し合いを基にまとめや振り返りを書く/ノート指導をすることができたという回答が70%以上。(職員アンケート) ●自分で学習の振り返りを書くことができる児童が、70%以上。(児童アンケート) ・到達度確認テストの全学年実施 ・全国・県学力テスト過去問題や類似問題への継続的取り組み 	職-①「一小学び」33.3(100)%【27.8(94.4%)】 職-③「対話による課題解決」 16.7(77.8)%【11.1(83.3%)】 児-③「友だちと話し合ったり聞いたり」 54.2(88.4)%【60.5(94.2%)】 児-④「振り返りでまとめを書く」 49.5(84.2)%【52.1(86.3%)】 保-②「進んで学習に取り組む」 15.3(89.4)%【21.3(90.7%)】 ※(上位評価)	B	・友だちに話したり聞いたり 高学年では、対話的授業のよさを児童も実感できているが、低学年では対話の授業がなかなか成立せず、評価が低かった。 ・ふりかえりでの自分の考えを書くでも、高学年ほどタイムマネジメントができ、振り返りで自分の考えを書くことができていた。また、タブレットを活用し、板書を保存し振り返りを書き込むスタイルに取り組んだ学年もあった。 ・見通しをもたせ、対話的な授業は授業内容の理解に役に立った。授業改革推進員や外部講師(岡山大学教師教育センター高旗浩志教授)を招聘し4回の研修を実施した。国語科を中心に学習指導案の各項目の書き方を通して、指導と評価の一体化の研修も行った。「3人組授業見学システム」を取り入れ、単元計画を児童と一緒に立てて見通しを持たせたり、対話の設定を視点にOJTにも取り組んだ。教職員自身が取り組めたと感じられるよう、更に取組を焦点化し、全校で一点突破の徹底を図る必要がある。 ・クロムブックの活用が本格的になり、高学年を中心に読書量が減っている。しかし、子どもたちの学びにおいて読書が重要なことは変わらない。今一度、学校では朝読書、読み聞かせ、教室にミニ図書館、本を使った調べ学習、教科書教材に関連する本に触れる機会を増やしていく。保護者にも児童の学びが伝わるように、本から学んだことを家庭で話題にできるよう、図書カードの持ち帰りやPTAと連携した親子読書や週末読書の課題なども行っていく。	・家庭学習について、漢字ドリルや計算ドリルは保護者もやったかどうかわかるが、自主学習についてはわかりにくいのではないかと、我が子がやっていることを知る機会をもつと数値があがるのでは？ ・児童が調べたいような内容等を子どもに示すこともよいのではないかと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識技能の定着 ・徹底したチャレンジタイムの実施 ・水曜日の放課後学習(国語)の徹底 ・東書データベースの活用 ・計算力のたしめ学期に1回計算チャレンジを実施、繰り返し実施定着を図る。 ・補充学習の時間等で国語・算数の優先課題に集中的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・80%以上の児童が、朝学習で立ち止まることなど計算等の処理ができる。(職員アンケート) ・計算チャレンジテストの結果 90%以上 ・勉強がわかるという回答が 80%以上(児童アンケート) ・補充学習の時間等で国語・算数の優先課題の補習と家庭での復習ができたという回答が70%以上。(職員アンケート) 	児-⑤「すらすら計算」181.6%【82.6%】 職-⑤「計算処理」68.8%【72.3%】 児-⑧「勉強よくわかる」185.3%【87.9%】 職-⑧「授業内容理解」72.3%【79%】	B		
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量を増やす取り組み ・読書指導、読書の時間の週1回確保 ・年間の「読書目標冊数」の設定・学校・家庭で読む読書量の増加 ・教室にミニ図書館の設置 ・調べ学習や関連読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、学習に活用しているという回答が全体の70%以上。(児童、保護者、職員アンケート) ・読書目標冊数 年間平均 低学年(1・2年)80冊以上 高学年(3～6年)40冊以上 	児-⑨「すすんで本」72.6%【70.6%】 保-⑦「読書」85.7%【82.4%】 年間読書冊数 低学年80冊 90%【94.2%】 高学年40冊 60%【84.9%】	B	・家庭学習について、昨年同様保護者の評価が低い。各学年の発達段階に合わせて適切に内容を設定し、学校からの漢字・計算ドリルの宿題だけでなく、教科書を読んで予習をしたり、自分から調べたことや復習したことを自主学習ノートにしたりするなど、家庭学習の出し方にも工夫していく。また、時間を決めて学習に取り組むなど、今後もメディアコントロール週間を設定し、より良い生活習慣を身につけられるように学校はあらゆる機会に啓発し、家庭と協力して取り組む。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実 ・家庭学習の手引きの実践 ・わかる授業とできる宿題 ・自主学習への取り組み(予習・復習中心) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や自主学習(高学年)等、家庭学習の時間が増えたという回答が70%以上。(児童、保護者アンケート) 	児-⑫「家庭学習」76.3%【77.3%】 保-⑫「家庭学習」50%【51.3%】	C		
2 思いやりのある児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の実施 ・大きな声で進んであいさつ ・運営委員会、学級での自治的な活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつがよくなるという回答が80%以上。(保護者アンケート) ・進んであいさつができていくという回答が80%以上。(児童アンケート) 	保-⑧「あいさつ」64%【74.5%】 児-⑩「あいさつ」84.2%【83.7%】 職-⑩「すすんであいさつ」63.1%【79%】	B	・自分から元気にあいさつできる児童が少ないことが課題である。学校では6年生を中心とした朝のあいさつ運動、PTAあいさつ運動の他に、「自分からあいさつスタンプラリー」も新たな取り組みとして行った。しかし多くの児童が主体的にあいさつができるような取り組みを行うことができなかった。今後は全ての職員で児童のよいあいさつを認め帰りの会など様々な機会をとらえて紹介し賞賛していく。あいさつはマナーでもあり、あいさつの意義に触れた指導も必要である。大人が手本を見せる意味でも、学校・家庭・地域の大人が連携してしっかり声をかけ、「すすんであいさつする児童の育成」を引き続き目指していく。	・あいさつをしっかりがんばってほしい。恥ずかしいからか、自信がないからか、しないわけではないが、頑張って取り組んでほしい。 ・「学校は楽しい」という子どもは増えているのに、減っているのは保護者なので、保護者に学校での様子を伝える機会が減っているからか。 ・通信やお知らせで、学校での様子を、もっと知らせてほしいのではないかと。 ・良いことの発信をぜひして欲しい。子どもから聞くだけでは分からない親もいる。親の認識度合い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係の育成 ・道徳、人権教育 ・認めあえる学級集団づくり、日々の生徒指導 ・自分には良いところがあり、学校が楽しいと感じられるよう、あらゆる活動で児童一人ひとりの「ねうち」のある行動を認める取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分には友達や先生から認められているよいところがあり、学校に行くことが楽しいという回答が50%以上。(児童、保護者アンケート。職員アンケートは66%) ●運動会、学習発表会での学校評議員・来賓評価 	児-⑫「学校は楽しい」 49.5(76.9)%【47.4(75.8)%】 保-⑩「学校に行くことが楽しい」 38.4(86.1)%【47.8(82.3)%】 職-⑫「学校は楽しい」 10.5(94.7)%【10.5(94.7)%】 ※(上位評価)	C	・昨年度より肯定的な声かけが重要であることを認識してきた。学が姿勢や好ましい人間関係に係る個や集団への評価を行うことで、児童の「認められている」という意識がわずかではあるが向上した。職員の中に評価の観点を増やすためにも職員間で具体的な研修が必要と考える。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を生かした道徳教育、教育相談、積極的な生徒指導 ・学校行事、縦割り班、通学班等での活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く協力できているという回答が90%以上。(児童アンケート) ・運動会、学習発表会での学校評議員・来賓評価 	児-⑭「友達と仲良く…」93.1%【93.7%】 職-⑭「人権意識」100%【93.7%】	B	・自己肯定感を高め、人間関係を高める学級集団作りに関して、教員による力量の差がある。「非認知能力」について夏季研修で学び、3学期にも校内で研修を重ねた。本校の児童の実態から、目指すべき児童の姿について共通認識を図った。児童の姿を見取る具体的な取組を共有し、教員の捉え方の向上を図る必要がある。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解のための研修、情報交換 ・会議ごとの情報交換 ・ケース会議や校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が児童一人ひとりの課題を共有しているか。(職員アンケート) 	職-⑭「児童理解」100%【82.4%】	A	・児童アンケート⑭について、昨年同様評価が高くなっている。更なる向上に向け、好ましい人間関係に係る個や集団への評価を行う。また、職員の中に評価の観点を増やすためにも職員間で具体的な研修を行い、よりより学級集団作りに取り組んでいく。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、不登校等に対する、教職員集団としての未然防止、早期対応 ・生徒指導体制の充実 ・職員の危機の感性 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告、連絡、相談、確認の徹底、組織対応ができているか。(職員アンケート) 	職-⑮「事故やけが、組織対応」100%【94.1%】	A		

3 体を鍛える児童の育成	運動への親しみ、楽しさの体験 ・体育の授業の充実(質と量の向上) ・体力づくりのために、チャレンジランキング、ロング昼休みの外遊び、縦割り遊びを奨励する。	・自分の体について知り、進んで運動しようとしているという回答80% (児童、保護者、職員アンケート) ・運動会での学校評議員・来賓評価	児-⑱「外遊び」80%【90.6%】 保-⑲「運動」90.6%【94.6%】 職-⑱「外遊びや運動」94.7%【100%】	A	・児童アンケート⑱「外遊びや運動をよくしている」の評価が昨年より低下した。今年度も月曜日をロング昼休みにしており、異学年間でサッカーや鬼ごっこやドッジボールをしたり、縄跳びや一輪車の練習をしたりする姿が多く見られる。また、高学年になっても外遊びを行っている児童が多いことは本校の強みである。しかし、外遊びなど日常的に運動している児童とそうでない児童の2極化が更に進んでいる。今後、体育において運動に楽しみながら取り組む活動を工夫していくことが必要である。スポーツテストの結果からも、子どもたちの体力低下が心配される。体育授業で運動の質と量を高めたり、多様な動きを体験させたりして日常的に運動する習慣作りに繋げていく。体育の授業が子どもたちの体力向上の基となるよう職員間で研修や共通理解を行っていく。	・地域の少年団に入る子が、本校は少ない。 ・体力テストの結果はどうか。高学年ほど2極化し、全体の底上げが課題なので、健康も含めた体育をがんばってほしい。 ・残食週間の取組はよいことだ。目標が合って、みんなではいけないけど〇〇できるといったことは、何をすることも大切なことではないか。
	自己の生活を見つめ、心身ともに健康な生活を送ろうとする態度の育成 ・保健だより ・保健指導 ・朝食摂取の大切さの啓発と「生活習慣・メディアコントロール調査」の実践・回収率のアップ	・朝食を食べているという回答90%以上(児童、保護者) ・生活習慣とメディアの調査を行い、朝食摂取状況調査結果90%以上。	保-⑳「早寝早起朝」84.9%【85.8%】	B	・保護者アンケート⑳「早寝早起朝ごはん」が昨年同様に目標値を下回っている。家庭内での児童の生活リズムが不安定であると考えられる。しかし、職員アンケート㉑「好き嫌い」からも、給食時において残食をする児童数は減ってきた。今後更に食育担当や担任を中心に食にかかわる啓発企画や指導を行い、児童が食の大切さ、有り難さを感じられるようにしていく。	
	正しい食生活の習慣化 ・好き嫌いのないバランスの取れた食事の大切さの啓発企画や指導	好き嫌いなく食べようとしている児童80%以上。 (職員アンケート)	職-㉑「好き嫌い」83.3%【83.3%】 児-㉑「給食好き嫌い」78.9%【83.6%】	B		
4 チャレンジする教職員	研修、自己研鑽、自己変革 ・授業公開を通じた指導力の向上 ・日々の実践交流	授業公開や日々の実践交流で教師自身の授業改善がなされているという回答が80%以上。 (職員アンケート)	職-①「一小学び」100%【94.5%】 職-②「授業改善」94.7%【100%】	A	・今年度は国語科を中心に単元計画を立てることで児童が見通しを持ち、主体的に学ぶことができるよう、職員が同じ方向性で指導ができた。今後は教材研究や教材分析の質を高め、授業力や生徒指導力の更なる向上を目指していく。	・次年度の研究を体育で行うことはよい。
	保護者との良好な人間関係作り ・日常的な教育相談 ・電話等の対応 ・細やかな連絡、共通理解 ・組織的な対応	教職員の対応は誠実に細やかに行われているかという回答が90%以上。 (保護者アンケート)	保-⑬「困ったとき」80%【85.4%】	B	・保護者アンケート⑬「困った時、適切に対応」は昨年に比べ評価が下がった。連絡を密に取るなど保護者に対し誠実に対応することが重要である。一人で対応するのではなく、担任・生徒指導・養護教諭・別室指導員・管理職など複数で対応することをより徹底する。今後も危機管理の面から、組織的対応を進めていく。	
5 家庭・地域連携	家庭教育の充実を図る ・生活十カ条の実践 ・家庭学習の手引き、活用の徹底 ・メディアコントロール週間(中学校区)学期1回、年間3回実施 ・授業内容に繋がる予習・復習	家庭学習が学年に応じたため(時間、内容)を達成しているという回答が70%以上。 (児童、保護者、職員アンケート) メディアコントロール週間の集計結果	職-㉒「家庭学習時間・内容」88.9%【73.3%】 児-㉒「家庭学習」76.3%【77.3%】 保-㉒「家庭学習」50%【51.3%】	C	・今年度も家庭学習にかかわる評価が保護者・職員共に低い結果であった。家庭学習時間、メディア時間の調査も年3回実施しているが、家庭での生活にまで十分生かされていないと考えられる。児童に対しては「家庭学習の手引き」を年度初めに確認し、家庭で学習する時間を持つ大切さや一生懸命取り組む気持ちを日々育てる。自主学習においては、取り組み状況にばらつきが見られた。今後は昨年度から行っている授業内容に繋がる予習・復習などの取り組みや各学年での行う量や内容についてよりいっそう共通理解を図っていく。そして、工夫されている自主学習を掲示し、参考にしながら取り組めるようにする。	・タブレットを全学年使っているのか？どんな内容をしているのか？地域や保護者にもわかるように、タブレット使用の参観日等を設定し、どの学年も使用している様子を保護者が見るのがよい。 ・タブレットの故障や、家庭での環境、学校での使用状況、持ち帰りルールなどどうなっているかといったことも、今後の課題になっていきそうだ。 ・携帯・スマホの学校への持ち込み等も、中学校区で連携を図っていくのがよい。
	学校教育への家庭・地域の参画を促す ・各種たよりの発行による啓発 ・地域、保護者の学校行事への参加を促す。 ・学校支援ボランティア等地域の人材活用 ・トライアングルみまさか 保幼小中連携 ・メディアリテラシーの授業(参観日) ・情報機器の適切な使い方と家庭学習のめあて達成への家庭との協力	学校のようなすがよくわかり、行事等に参加しやすいという回答が90%以上。(保護者アンケート) 地域の人材活用が有効に行われ、充実しているという回答が80%以上。 (職員アンケート) 緊密な情報交換のもと、小中一貫して「チャイムスタート」「あいさつ・返事・くつろぐ」の取り組みを進め、児童の実態に変革がみられたという回答が80%以上。 (職員アンケート)	保-⑳「便り通信・参観日行事」83.7%【88.2%】 職-⑳「地域人材」83.3%【77.8%】 職-㉕「チャイム」94.7%【77.8%】	B	・今年度もコロナ禍の影響で、地域の方にご協力頂くことが難しかったが「田植え・稲刈り」「卒業式へ向けての花の寄せ植え」「湯郷温泉・温泉旅館の見学」「水生生物調査」「道路建設の見学」等を行うことができた。来年度についても対策をとりつつ、学校支援ボランティアの方たちにご協力いただくことができるようお願いしたい。	
	児童・職員の生命をまもる ・施設、設備管理 ・安全点検の実施 ・コンプライアンス研修	安全点検により施設設備の管理が十分行われているか。(職員による安全点検結果、職員アンケート) 定期的なコンプライアンス研修 不祥事の発生率0% 危機意識の向上	職-⑳「安全点検・施設・設備」100%【94.4%】	B	・児童や職員の安全を確保するため、担当が毎月点検し学期1回は複数の職員で点検する。危険な場所・施設を全職員が把握し早めに修繕する。避難訓練は定期的に訓練を行い、職員が避難方法を良く理解し、全体ですみやかに避難できるように徹底する。	・地域の見守りパトロール隊等で、児童の登下校の安全に協力している。 ・スクールバスが校内に入るようになり、校門前の坂が狭いので、溝蓋してもらおうように要望してはどうか？ ・坂下駐車場に駐車ラインがあったほうがよい。 ・施設が汚いと良い子は育たないので、今後も頑張って地域でも協力していきたい。
6 学校安全	災害・事故・事件の予防と対応 ・避難訓練の実施 ・交通教室の実施 ・組織的な登下校指導と家庭・見守り隊等地域との連携	安全教育の指導は、校内外において、課題に即した内容で有意義に行われているか。(職員アンケート)	職-⑳「避難訓練」100%【94.7%】 職-㉓「登下校」100%【88.2%】	B	・今年度は、毎月1回、管理職が中心になりコンプライアンス研修を行ってきた。これからも定期的に行うことで、絶対に不祥事が発生しないように努める。	